

二子棚田を活用した地域コミュニティ作り

成果報告書

【事業目的】

棚田本来の魅力である歴史、食文化など、高い文化性を養い、棚田を文化として後世に伝えて行けるような人材を育成することを目的として、この事業を実施致しました。

【目標と内容】

地域コミュニティ作りを第一の目標として実施、城西国際安房キャンパスを会場にして8回の講義実習と、休耕地開墾からの農業体験実習を併せて行う。

【本事業の成果】

1. 地域コミュニティ作りに関して、地元の大学、城西国際大学観光学部の学生と協働で年間を通して活動した、4名の交流メンバーが増え(来期に地域おこしサークルで学校に登録予定)彼らが参加を呼び掛けた地元の学生、講師役の地元の神社の禰宜職岡野氏など、棚田を通して地域コミュニティが形成された。



城西国際大学の学生達



地元神社、天津神明宮の禰宜職岡野氏による地域についての講義。

2. 年間の棚田での農業体験を通して、都市農山村交流が生まれた、交流先は板橋区高島平地域交流団体ぱうぜ、大江戸ダンスの2団体、来年度から地域コミュニティと、都市コミュニティ同士の都市農山村交流に発展することになりました。



板橋区高島平のグループ



大江戸ダンス代表長谷川氏



地元学生によるかかし作り

【事業の総括】

農業体験が終わってから、城西国際大学に移動し集中講義を受けるスタイル体力的にも参加者の負担にはなかったが、地域コミュニティを作るという点においては、一体感が醸成されプラス面の方が多かった、農業体験だけでなく、地域活性化についての講義も並行して行う事で、今後の地域活性化に必要な知識とスキルを参加者はバランス良く身に付けることが出来ました。



ファシリテート実技講習、森氏による質問ゲーム。

ここで各自得た、知識、スキル、そして交流で生まれた地域コミュニティを活用して、来期からの地域活性化に各自応用していくこととなります。



稲刈りの様子

農業実習を通した都市農山村交流は、来年度は高島平地域交流団体ぼうぜなどは、被災地支援にも行くことになり、今年度ほどの人員は割くことが出来ず、来年度は自主財源の範囲で、都市農山村交流を続けていきます。

棚田を活用した地域コミュニティが形成されたこと、都市との交流が生まれたこと、この2点を今期の助成事業の成果として、報告いたします。